

単為結果性高知ナスの収量特性



‘はつゆめ’の着果状況

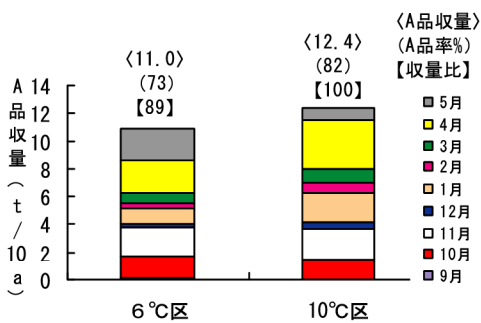


図1 夜温が単為結果性高知ナス‘はつゆめ’のA品収量に及ぼす影響

定植：2004年9月3日。栽植方法：うね幅180cm株間50cm (1,111株/10a)。温度管理：6°C区は最低夜温6°C、10°C区は平均夜温10°C。単花処理：10月1日から10月31日までの期間トマトーン50倍液を2～3日毎に噴霧処理した。

単為結果性ナスは、トマトーンの単花処理や花粉媒介昆虫を利用しなくても結実・肥大することから、省力的でコスト低減にもつながる品種として大きな期待が寄せられています。

当センターで育成された単為結果性品種‘はつゆめ’および「試交58号」について、夜温および主枝の仕立て数の違いと収量性について検討しました。

その結果、‘はつゆめ’を低夜温 (6°C) で管理すると品質低下を招き、A品収量が減少することが分かりました (図1)。主枝の

表1 単為結果性高知ナスの収穫果率および正常肥大果率 (%)

品種	仕立て数	収穫果率 ^{Z)}					正常肥大果率 ^{Y)}
		9～11月	12～2月	3～5月	平均	対比 ^{W)}	
はつゆめ	2本	88	72	65	76	104	98
	3本	85	73	59	73	100	98
試交58号	2本	87	67	57	72	99	87
	3本	87	68	54	71	100	88

Z) 調査株数5株、5月15日までに開花した全果を調査。Y) 調査株数5株、5月29日までに収穫した全果のうち正常に肥大した果実 (C品の石果、ボケ果を除く) の割合。W) 3本仕立てを100とした場合の比。

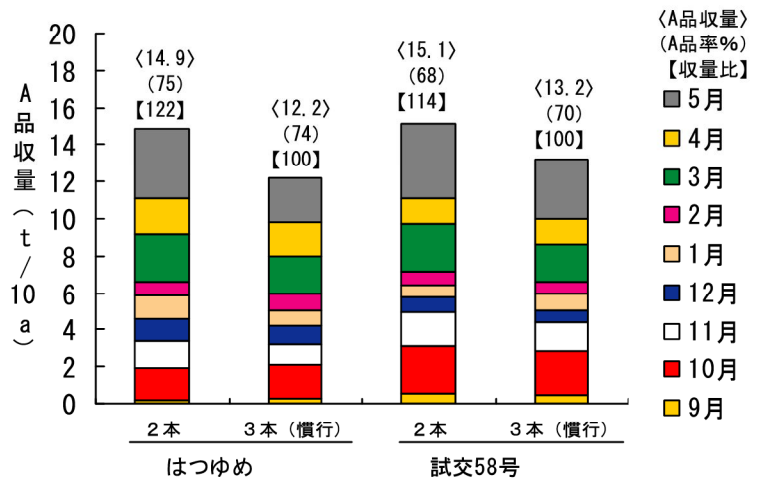


図2 単為結果性高知ナスの主枝の仕立て数の違いとA品収量

定植：2005年9月3日。栽植方法：3本仕立ては、うね幅180cm、株間50cm (1,111株/10a)、2本仕立ては、うね幅180cm、株間33.3cm (1,684株/10a)。温度管理：平均夜温10°C。単花処理：開花始めから10月25日までの期間トマトーン50倍液を2～3日毎に噴霧処理した。

仕立て本数を慣行の3本仕立てから2本仕立てにした場合、‘はつゆめ’および「試交58号」ともにA品収量が著しく増加しました (図2)。また、仕立て数の違いによる収穫果率の差は認められませんでした。正常肥大果率でみると、「試交58号」に比べて‘はつゆめ’で高い傾向が認められました (表1)。

現在、増収のための栽培管理や新しく育成された系統の生育、収量特性について試験を進めています。

(施設野菜担当 小松秀雄 088-863-4918)